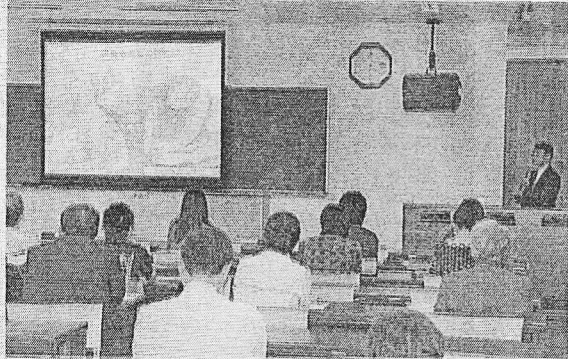


被災地での鍼灸治療の活動報告を
聴く学生たち(南丹市日吉町・明治
国際医療大)



ストレス原因の疾患増えた

明治国際医療大教授ら 被災地活動を報告

東日本大震災

丹波で

東日本大震災の被災地
で鍼灸治療に当たった
明治国際医療大(南
丹市日吉町)の教授ら
の報告会が24日、同大
学であった。

国際医療援助団体
「AMD A」(本部・
岡山市)の派遣要請を
受け、鍼灸学部は今井
賢治教授は4月11日、
24日、伊藤和憲准教授
は同23日、30日まで岩
手県大槌町で活動し

た。

報告会には学生ら約
50人が参加。同大学付
属病院放射線科の北村
真技師が、福島県田村
市で住民の放射線量を
調べる「スクリーニン
グ」を振り返った。

今井教授は、医療チ
ームが地域を網の目状
に巡回しながら支援を
続けたことを紹介し、
医療従事者同士の連携
の重要性を強調。伊藤
准教授は「震災から1
カ月以上がたち、スト

レスが原因の疾患や腰
痛、肩こりなどの慢性
的な疾患が増えた」と
語り、被災者のニーズ
に合わせた医療支援の
在り方を訴えた。

(上坂恭平)